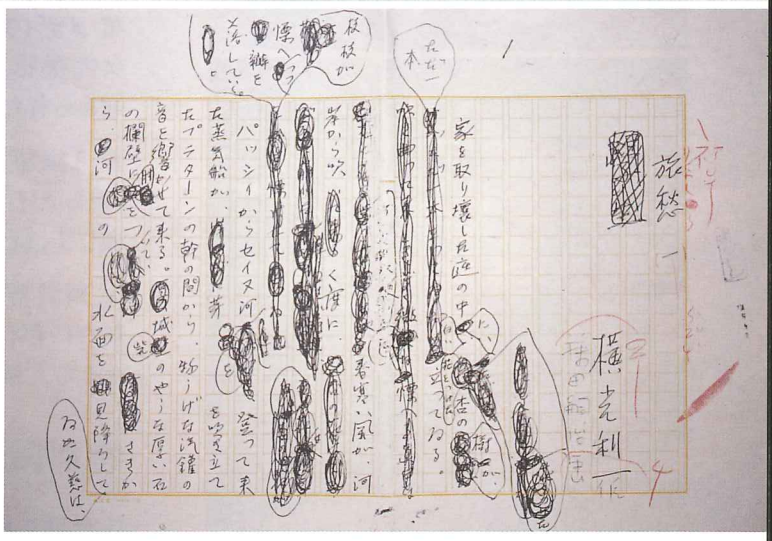
新世紀の横光利一



2019年

3月2日(土)～3月30日(土)

午前9:30～午後4:30(入館は午後4時まで)

※日・月および3月28日は休館日

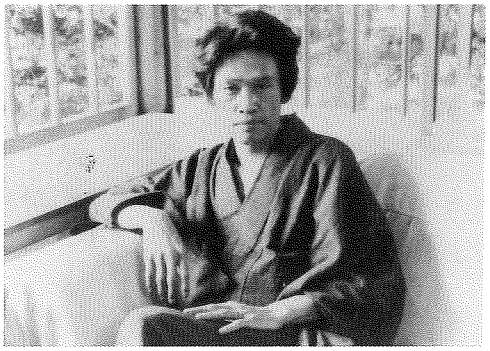
観覧料：300円(200円)、中学・高校生 100円
(　　)は団体 20名様以上の料金

会場：日本近代文学館　東京都目黒区駒場 4-3-55(駒場公園内)

主催：横光利一展実行委員会

協力：横光利一文学会・公益財団法人日本近代文学館

新世紀の横光利一



日本近代文学館提供

横光利一（1898～1947）は、第二次世界大戦前の日本においては、もっとも有名な小説家の一人であった。彼の文学については、これまで新感覚派時代のモダニズム文学の旗手として評価されることが多かったが、近年では、長編『上海』を中心とした東アジア全体の文学との関連や、アジア太平洋戦争の戦時下で書き継がれた『旅愁』におけるヨーロッパと日本との対比など、その研究の裾野が大きく広がっている。

世界各地で民族や宗教、文化の衝突による暴力が噴出している、21世紀の現在において、文化交流やナショナリズムの醸成など、横光利一の文学が格闘し続けた問題は、色褪せることなく今も問い返され続けている。彼の文学を通じて我々の〝今〟を考えたい。

展示内容（予定）

Ⅰ モダニズム作家として

習作期から作家としての出発、新感覚派としての文壇での活躍を、アヴァンギャルド芸術運動の広い枠組みの中で捉えなおす。

Ⅱ『上海』―― 東アジアとの接点

魔都〈上海〉を横光利一は、どのように描こうとしたのか。『上海』執筆に用いた資料を推定し、その実態に迫る。

Ⅲ メディア・読者の中で

女性雑誌、新聞といった複数のメディアに作品を発表し、多くの読者に迎えられた流行作家としての横光を考える。

Ⅳ『旅愁』――東西文化の中の作家像

『欧州紀行』『旅愁』の基となった新資料「欧州メモ」、渡欧中の行動などを通じて、〈日本〉、戦争という問題を考える。

Ⅴ 新資料 ―― 谷川徹三宛書簡

新たに存在が明らかになった谷川徹三宛の書簡16通などを通じて、横光とその文学の影響圏を捉えなおす。

特別関連イベント

千葉俊二氏講演（早稲田大学名誉教授）

3月16日（土）横光利一文学会第18回大会　15:00開始　16:00終了予定
当館講堂　参加無料　定員80名　事前申込不要

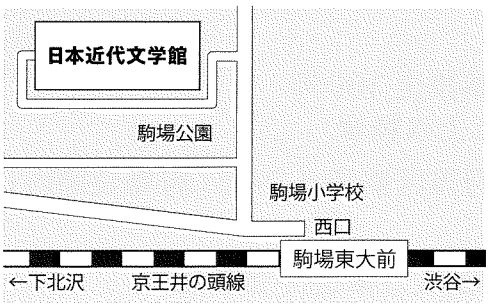
新感覚派映画連盟第一回作品
「狂った一頁」（衣笠貞之助監督）弁士・楽士（ピアノ）付き上映会

3月21日（木）　14:00開演　15:30終演
当館講堂　入場料1,000円　定員80名
弁士：片岡一郎　／　ピアノ：上屋安由美
1月10日よりメール（yokomitsuten@gmail.com）にてお申し込みを受け付けます。

同時開催

「3.11 文学館からのメッセージ　震災を書く」

主催：公益財団法人日本近代文学館
併設の川端康成記念室にて同時開催。
「新世紀の横光利一」の観覧料で同時にご観覧いただけます。

日本近代文学館

東京都目黒区駒場4-3-55（駒場公園内）
TEL：03-3468-4181
FAX：03-3468-4185
アクセス：京王井の頭線、
駒場東大前駅（西口）徒歩7分